

## 奄美群島国立公園ならではの、伝えたい価値

- 奄美群島国立公園は、奄美群島各島の多様で豊かな生態系や環境文化（人と自然の関わりの中で形成された風景や風土）をその価値として指定された国立公園。
- 黒潮や季節風の影響により雨が多く、亜熱帯地域としては珍しい多雨林や世界的北限に位置するサンゴ礁など、陸から海にかけての多様な生命を育てており、人々の暮らしは周辺の自然と密接に関わっている。
- 豊かな生物多様性により世界自然遺産に登録された奄美大島・徳之島は、後期中新世（約1200万年前～500年前）までに奄美群島がユーラシア大陸と分断されて隔離され、アマミノクロウサギやケナガネズミなどの生き物が大陸では絶滅してしまった今でも残っている遺存種として生息している。また、鳥類ではルリカケス、アマミヤマシギなど固有種に加え、渡りの中継地でもあることから、これまで日本で記録された633種の約50%を占める約330種以上が記録されている。
- 歴史的にも、旧石器時代以降の奄美世（あまんゆ）、15世紀中頃の琉球国支配（那覇世）、1609年薩摩藩支配（大和世）、1945年終戦後の米軍統治（アメリカ世）、1953年日本復帰と変遷してきた。

※そのような背景で奄美特有の文化、信仰、自然観などが育まれ、「自然を畏れ敬う」精神が生き物を守り生物多様性を守ることに、そして文化を守ることにもつながっている。